

新宿区立愛日小学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・7年11月14日】

授業作り	重点	・主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業ではめあてを明確にし、学習の振り返りをしっかり行う。 ・確かな学力向上のため、ICT 機器を効果的に活用して個別最適な学習を推進し、基礎・基本の定着を図る。
環境作り		・「愛日スタンダード」を基にした学習指導・生活指導を行う。 ・ユニバーサルデザインを意識した教室掲示等、全校で統一した環境づくりを行う。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学年		国①言葉の面白さ、楽しさを味わいながら文字や文章の読み書きの確実な定着を図る。 ②相手の話をしっかり聞くとともに、自分の考えを話すことができるようにする。 算③数の表し方や計算の仕方を十分に理解し、正確に計算できるようにする。	①②一単位時間の中に、話す、聞く、読む、書く活動をバランスよく設定。 ①②考えを伝え合う活動の充実。(ペアトーク) ③具体物、半具体物、図、言葉、数、式、表を用いて自分の考えを表現する活動の設定。 ③基礎的な計算練習の時間の確保。
2 学年		国①読書活動を充実し、語彙力の向上を図る。 ②自分の思いや考えを明確にして、書いたり話したりすることができるようにする。 算③具体物や図などを用いて、数の表し方や計算の仕方を十分に理解し、正確に計算できるようにする。	①言葉に着目して考える機会を増やし、読書の幅を広げるための、読み聞かせやブックトークの実施。 ②自分の思いや考えを表現する場の意図的な設定による、学級全体の話し合いやペアでの対話の充実。 ③具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考えを伝え合い学び合う場の設定。 ③基礎的な計算練習や九九の定着を図る時間の確保。

3 学 年	・言語・情報・言語文化に関するポイントが他の領域に比べやや低いことから、語彙を豊かにして、言語感覚を高めることが必要。 ・既習の漢字を活用する意識の向上と、新出漢字の習得が必要。 ・自分の考えと比較して相違点や類似点を捉えながら聞くことが必要。 ・自分の伝えたいことを明確にして分かりやすく書くこと、句読点等の表記を正確に書くことが必要。 ・算数の基礎的な学習内容の反復練習が必要。	国①新出漢字の学習を計画的に行って習得につなげるとともに、既習漢字の活用を促す。 ②語彙力と言葉・表現への意識の向上を図る。 ③伝えたいことを明確にしてはっきりと話して伝えたり、話し手に向けて聞いたりする意識を向上させる。 算④基礎的な学習内容の定着を図る。 ⑤考えが伝わるように説明する技能を向上させる。 ⑥数や図形、グラフなどにすすんで関わり、学習に生かそうとする意識を向上させる。	①宿題の習慣化とノート指導での徹底。文字を丁寧に書く指導の充実。 ②国語辞典、「言葉のたから箱」の活用、「言の葉帳」の作成と活用。 ③相手や目的に応じた言葉の選択や、自分の思いや考えを表現する活動の充実。(スピーチ、トリオでの話し合い活動、発表) ④かけ算の反復練習の徹底。 ⑤ノート指導の充実とよい説明の紹介、提示。 ⑥日常生活での量感の意識付けと、他教科での意図的な活用。
4 学 年	・書くことに関するポイントが他の領域に比べやや低いことから、考えを相手に豊かに伝える語彙力の向上、言葉や文章で伝えようとする意識の高まりが必要。 ・漢字など、既習の知識を活用する意識の向上が必要。 ・話し手を見たり、反応したりしながら聞き、自分の考えと比較して相違点や類似点を捉えることが必要。 ・文章や原稿を見返し、他者意識をもつことが必要。 ・速く正確に計算する力など、既習内容の定期的な反復練習が必要。	国①自分の考えを、既習の表現技法や豊富な語彙、既習の漢字を活用して相手に伝わるように表現できるようにする。 ②話し手の方を向いて、頷いたり相槌を打ったりしながら、自分の考えとの違いや似ているところを明確にできるようにする。 算③分からないところを自覚し、改善するために、自主的に反復練習できるようにする。 ④数や図形、グラフなどにすすんで関わり、学習に生かそうとすることができるようにする。	①図書の時間の活性化や、国語辞典の活用の強化。 ①ノート指導の充実と、分かりやすいノートの紹介。 ②朝の日直のスピーチなどで聞く時間の確保。 ③めあてと振り返りの意識付け。 ③デジタルドリルやタブレット端末の有効活用。 ④学習したことを価値づけ、今後の学習に生かす場面の設定。
5 学 年	・自分の考えを書いたり、文章問題に正しく回答したりするために、語彙を豊かにし、話したり文章を書いたりする中で使うことのできる力が必要。 ・自分の文章を読み返すこと	国①様々なジャンルの本に触れ、表現方法や語彙力の向上を目指す。 ②同じ言葉の繰り返しなど文章の矛盾点を見つけ修正するために、読み返すことを習慣化する。 ③毎日の気付きを自分の言葉で書	①読書活動の充実。 ②推敲のポイントを示したカードの作成。 ③朝学習での作文の時間の確

	が必要。 ・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決める力が必要。	き溜めておくことで、表現力を向上させたり、柔軟な視点を養ったりする。 算④文章問題の読み方を定着させる。	保。 ④重要だと思った箇所の明確化（ラインを引くなど）。 ④キーワードの取り出し。
6 学 年	・語彙を豊かにし、話したり文章を書いたりする中で使うことのできる力が必要。 ・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることのできる力が必要。 ・思考・判断・表現を問われる問題への正答率がやや低いことから、問題解決の過程や結果を、目的に応じて数学的に表現して伝え合う練習が必要。	国①説明的文章、物語、エッセイ、伝記、俳句、短歌、詩など様々な種類の文章に触れ、語彙を増やしていけるようにする。 ②話し手の考えと自分の考えとを比較して共通点や相違点を整理したりしながら話し合ったり、書いたりする活動を計画的に行う。 算③数学的な表現を用いて、論理的に説明し、伝え合う活動を充実させる。	①朝学習、読書活動の充実。 ①学習の中で、様々な種類の文章に触れる機会の確保。 ②話し合いの視点を明確化。 ②タブレット端末を活用した交流やまとめ。 ③図や式、言葉など様々な方法で思考を表現。
特 別 支 援		①休みの日にあったことや行事のことなどを文に書く機会を増やし、考えたり書いたりすることに慣れさせる。 ②読書タイム、読み聞かせなどを通し、本に触れる機会を増やす。 ③生活单元、総合などでタブレット端末を使い発表させる。 ④日常生活の様々な場面を想定し、実際の生活場面で知識や計算を活用できるように場面を設定する。計算は忘れないよう、継続的に学習する。 ⑤個に応じた課題、教材を作成する。	①週末の日記の課題、行事のまとめや発表の充実。 ②図書の時間、読書タイムの活性化。 ③タブレット端末の活用。 ④具体物の操作を取り入れた学習。 ⑤小集団学習と個別学習の充実。